



各報道機関 様

KJ00648263

2026年5月22日

発信課	社会教育部文化振興課彫刻美術館
担当者	臼杵 朱莉
連絡先	電話 46-6277
	FAX 46-6288
	E-mail sculpture_mus@city.asahikawa.lg.jp

分類	イベント・行事 <input checked="" type="checkbox"/> 募集 <input type="checkbox"/> 契約・入札 <input type="checkbox"/> 会議・説明会 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/>
日程	令和8年6月12日 9時00分 ~ 令和8年9月23日 17時00分
発表項目 (行事名)	旭川市彫刻美術館「彫刻家・山谷圭司×写真家・基敦 -静かな対話 Silent Dialogue-」の開催について
概要 (趣旨・日時・場所・内容等を記入すること。)	<p>旭川市彫刻美術館本館展覧会 「彫刻家・山谷圭司×写真家・基敦 -静かな対話 Silent Dialogue-」</p> <p>本展では、旭川市出身で、現在上富良野町にアトリエを構えて制作活動を続ける彫刻家・山谷圭司(やまや けいじ)と、同じ上富良野町を拠点に活動する写真家・基敦(もとい あつし)によるこだわりの作品世界をご紹介します。山谷圭司の彫刻家としての歩みを振り返り、過去の未発表作品や新作を含む彫刻作品をご覧いただくとともに、基敦による写真を通じて、野外彫刻を含む様々な彫刻作品に出会い、二人ならではの多角的な視点で彫刻世界に親しみ、二人の作品が織りなす、静かな対話を感じてください。</p> <p>会 期：令和8年6月12日(金曜日)～令和8年9月23日(水曜日) ※休館日を除く(備考欄参照) 時 間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで) 会 場：中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館1階展示室 (旭川市春光5条7丁目) 観覧料：一般450円/高校生300円/中学生以下無料 ※常設展観覧料を含む。各種減免規定あり。 主 催：中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館 後 援：上富良野町教育委員会</p>
添付資料	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
報道(取材)に当たってのお願い	
備 考	休館日は下記の通りです。 6月15日(月)、6月22日(月)、6月29日(月)、7月6日(月)、 7月13日(月)、7月21日(火)、8月31日(月)、9月7日(月)、 9月14日(月)



《三つの柱 二つの門 一つの場》山谷圭司 撮影：基 敦

彫刻家 **静かな対話** 写真家
—Silent Dialogue—

山谷 圭司
YAMAYA Keiji



基 敦
MOTOI Atsushi

2026年6月12日（金）～ 9月23日（水・祝）

中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館
（北海道旭川市春光5条7丁目）

開館時間◆午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日◆6/15（月）、6/22（月）、6/29（月）、7/6（月）、7/13（月）、7/21（火）、
8/31（月）、9/7（月）、9/14（月）

入館料◆一般/450円、高校生/300円、中学生以下無料

※料金には常設展観覧料を含む。各種減免規定あり。

主催◆中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館

☎ 0166-46-6277

メール sculpture_mus@city.asahikawa.lg.jp

後援◆上富良野町教育委員会



彫刻家・山谷 圭司 × 写真家・基 敦 —静かな対話 Silent Dialogue—

山谷 圭司は旭川市に生まれ、武蔵野美術大学彫刻科卒業後、ミュンヘン造形芸術大学（L.コルンブルスト教室）で彫刻を学び、国内外で広く活動を行っている彫刻家です。主に石を素材とした作品を制作しており、旭川市内では《塞の石組み》と《三つの柱 二つの門 一つの場》、《重さのロンド》の3点が野外彫刻として設置され、市民に親しまれています。

基 敦は、彫刻家である基 俊太郎を父に持つ写真家で、これまで一貫してゼラチンシルバープリント（銀塩写真）にこだわり、独自の視点で制作を続けています。彫刻作品の写真を手掛けることも多く、基の彫刻写真は、記録写真や資料写真とは異なり、基自身が感じた「彫刻的感動」を与える一瞬を切り取ったものとなっています。

「石彫」と「銀塩写真」というアナログな技法にこだわって制作活動を続けてきた二人の姿勢からは、デジタルでは表現しきれない芸術世界を感じることができます。

山谷 圭司の彫刻家としての歩みを振り返り、過去の未発表作品や新作を含む彫刻作品をご覧いただくとともに、基 敦の写真を通じて野外彫刻を含む様々な彫刻作品に出会い、二人ならではの多角的な視点で彫刻世界に親しみ、二人の作品が織りなす、静かな対話を感じてください。

山谷 圭司 やまや けいじ 略歴

- 1955 旭川市に生まれる
- 1980 武蔵野美術大学彫刻科 卒業
- 1983 クラスタル国際彫刻シンポジウム（オーストラリア）
- 1986 ミュンヘン造形芸術大学 卒業
- 1987 ビルカフラスイチャシ計画着手（上富良野町）（～1997年）
- 1988 第一回米子彫刻シンポジウム（鳥取県米子市）《星の舟—まずは今、ここに来たりて—》
- 1991 大蔵山ワークキャンプ（宮城県丸森町）《時の道》※5人の共同制作
- 1992 「ミレウスコ国際彫刻家シンポジウム」（チェコ）
- 1993 インスタレーション「HABITAT」（札幌芸術の森美術館・札幌市）
彫刻家集団「CINQ」として石山緑地を設計・造成（札幌市）（～1996年）
- 1994 「アーティストキャンプ・イン・アソ」（熊本県南小国町）
- 1995 ベベルインタル計画着手（上富良野町）（～現在）
- 1997 個展（ギャラリーシーズ・旭川市）
- 1998 「HIGH TIDE12」（札幌コンチネンタルギャラリー・札幌市）
- 1999 「インジフ・ウラデツ国際彫刻シンポジウム」（チェコ）
- 2000 「現代美術展 現代美術の断面 HIGH TIDE の場合」（夢創館・恵庭市）
水脈の肖像展（大丸藤井セントラル、旭川富貴堂ギャラリー）
「ふらのアートフェスタ」（富良野市）（2003年も参加）
第1回旭川彫刻フェスタ公開制作（旭川市）《ものがたりの壁》（のち《塞の石組み》に改題）
- 2001 「ゴア国際彫刻シンポジウム」（インド）
- 2002 「バルス彫刻ワークショップ」（エストニア）
第2回旭川彫刻フェスタ公開制作（旭川市）《三つの柱 二つの門 一つの場》
- 2010 旭川彫刻フェスタ10周年記念展「まちの彫刻動きだす。」
（旭川市彫刻美術館、北海道立旭川美術館・旭川市）
- 2022 旭川彫刻フェスタ20周年記念展（旭川市彫刻美術館、ギャラリーシーズ・旭川市）
「コルンブルストの卵」展（ギャラリーせいほう・東京都）
- 2025 旭川彫刻フェスタの記録展（旭川市彫刻美術館ステーションギャラリー・旭川市）

基 敦 もとい あつし 略歴

- 1959 東京都に生まれる
父は彫刻家、基 俊太郎
- 1980 東京造形大学中退
- 1983 オリンパスギャラリーにて初個展
- 1984 オリンパスフォトグラフィーの表紙を一年間連載
季刊誌コルディア エッセンスの扉を田村隆一と一年間連載
- 1986 写真集「フォートベインティングス」（玄光社）
- 1988 New York ADC 賞（広告写真）
- 1993 第一回トスカーナ フォトフェスティバル招待出品
- 1994 北海道上富良野町に移住
- 2005 個展（大同ギャラリー・札幌市）
- 2006 家庭画報の扉を中上紀と一年間連載
- 2008 季刊誌カイにフォトエッセイ連載（～2015）
- 2014 北海道上富良野町千望峠に637studioを開設
- 2015 個展（ギャラリーシーズ・旭川市）
- 2026 作品集 Past and Present（637studio）



《重さのロンド》山谷圭司 撮影：基 敦

旭川市彫刻美術館へのアクセス

■バス（旭川電気軌道バス）をご利用の場合
旭川駅前バスタッチより4番のりばから
春光バスセンター行（5番・80番・522番）
いずれも「春光園前」下車（所要時間約25分）

■お車をご利用の場合
旭川駅前から約20分
道央自動車道 旭川鷹栖ICから約10分
※無料駐車場有り（7台）

■タクシーをご利用の場合
旭川駅前から2,110円程度

中原悌二郎記念
旭川市彫刻美術館
〒070-0875 旭川市春光5条7丁目
TEL 0166-46-6277 Fax 0166-46-6288
<https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/sculpture>

イベントのご案内

○ ギャラリートーク

7月4日（土）14：00～15：00

定員：30名（先着順）

参加料：無料（別途、入館料が必要です）

制作時のエピソードや、制作のこだわりなど、展示室内で出品作家から直接お話を聞くことができます。

申込フォームまたは電話にてお申し込みください。



常設展示のご案内

2階展示室では、中原悌二郎の全12作品を中心に、中原悌二郎賞受賞者の作品など、近・現代を代表する著名な彫刻家の作品をご覧いただけます。

■展示作家 オーギュスト・ロダン、荻原守衛、中原悌二郎、木内克、柳原義達、佐藤忠良、舟越保武、桜井祐一、清水九兵衛、朝倉響子、吾妻兼治郎、掛井五郎、澄川喜一、福岡道雄、植松至二、笹戸千津子、青木野枝、小泉俊己、中谷ミチコ、藤原千也 ほか